

\*\*\*\*\*

NPO法日本海洋深層水協会メールマガジン 第62号 (2013年9月30日)

\*\*\*\*\*

NPO法人日本海洋深層水協会 メールマガ編集チーム

当協会では、海洋深層水利用の最新動向や、各地のイベント、製品開発などの話題を、会員および一般の皆様へ、より積極的にお知らせするために、メールマガジンを発行しています。

どなたでもご利用いただけますので、配信をご希望の方は、当協会HPの“メールマガジンの申込み” [http://www.npojadowa.net/DWScript/DWInfo\\_MailMgzn.htm](http://www.npojadowa.net/DWScript/DWInfo_MailMgzn.htm) からお申し込みください。

なお、本年10月から非会員の方には3か月に1回の配信となります。

会員向けには、同時に海洋深層水関連ニュースも配信しています。

読者の皆様で、メルマガやHPを通じて情報や話題を提供したいと思われる方は、メールで [npojadowa@npojadowa.net](mailto:npojadowa@npojadowa.net) まで、ご連絡ください。

\*\*\*\*\*

目次 <協会制作記事> 地震と魚のお話し

\*\*\*\*\*

## 地震と魚のお話し

皆さんは、今、焼津市の深層水ミュージアムに、深海ザメの一種で生きた化石とも言われる「ラブカ」のはく製が展示されているのをご存知ですか？

はく製になったラブカは全長1.3メートルのオスで、昨年2012年4月11日に駿河湾でサクラエビ漁をしていた漁船に生きた状態で捕獲されました。深層水ミュージアムで飼育を試みましたが、すでに衰弱が激しく、翌12日に死んでしまいました。しかし、非常に珍しい深海生物で、死後の状態も良いことから、はく製にして展示されることになったのです。ラブカは、カグラザメ目ラブカ科に属するサメで、その外見から「ウナギザメ」とも呼ばれています。



焼津市深層水ミュージアムに展示されているラブカのはく製

このラブカの捕獲は、「深海魚、静岡県で相次ぎ出現…大地震の前触れ？」という見出しで2012年6月9日の読売新聞に掲載されました。そして、ラブカ捕獲のニュースは、地震魚として有名な「リュウグウノツカイ」や「サケガシラ」とともに紹介され、「専門家は否定しているが、地元住民からは「大地震の予兆のように思えて仕方がない」、「動物は自然現象に敏感と言われるので不安」といった声も聞こえてくる。」という内容で紹介されました。

そして、また、今度は2013年9月5日の高知新聞に、「室戸定置網に深海魚続々「地震前兆？」リュウグウノツカイも」という記事が紹介されました。

“室戸市室戸岬町の高岡、三津大敷組合の水深約70mに設置されている定置網に7月と8月に、普段はめったに見られない深海魚が相次いで掛かり、関係者を驚かせている。一度に80匹近い群れ状態に入った種類もあり、専門家は「これらの深海魚は普段は、水深200m以下に生息し、夜間に餌を求めて表層近くまで上がってくることがある。何らかの潮の流れが原因では」と推察しているが、見つかると地震が起きるという言い伝えがあるリュウグウノツカイも上がっており、漁業者は気味悪がっている。” という内容です。



リュウグウノツカイ



サケガシラ

ナマズが暴れ、犬や猫が鳴き、アジやイワシが大量に網にかかり、釣れるはずもない深海魚が釣れたというニュースが流れたら、地震の予知とか予兆に興味がない人でも少なからず「何かあるかも?」と、思うのではないのでしょうか?

事実、自然現象の予兆や、ナマズやウナギなどの魚を含めた動物の地震予知能力を研究している学者もいますが、現在のところ、魚の異常行動や漁獲の異変と地震の前触れの間係を説明できる段階までには達していないようです。

ナマズやサメは大変鋭敏な電磁センサーを持っていることが知られています。人間が作る最高の感度のセンサーより、サメの持つセンサーの方が、はるかに感度が高いのです。

ところが、ナマズにとっても学者にとってもセンサーの敵は文明なのです。私たちが利用する電気で、地中を流れる電流がけた違いに増えてしまい、自然現象と人工雑音の区別が付き難くなってしまいました。ナマズやサメの持つセンサーは小さな電磁波にも反応するため地震以外の現象で発生する電磁波にも反応してしまうと考えられています。つまり、地震が起きるとナマズは反応しますが、ナマズが反応したから地震が起きるとはならないわけです。

ナマズが発する情報を地震予知に役立てるためには、彼らが発する情報を的確に判断するための人間の知恵がもう少し必要なようです。

(羅深)